

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Contains details for 0170502397, レストケア, グループホームびーぶるマルシェ (A), 札幌市南区川沿16条2丁目4番17号.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL: https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170502397-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Details: 特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット, 札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401, 令和3年3月3日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様同士の円滑な交流が図れるように環境作りを行い、身近な地域資源である1階フロアともイベントや合同レクリエーションを行い、交流を深めている。個々の潜在能力を活用し、機能・認知訓練に力を入れている。ご家族の意向や希望を尊重し、御本人にとって安楽に生活できる環境づくりに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市内より車で20分程度離れた南区の静かな住宅街にあり、すぐ横は硬石山で砥石山、烏帽子山と手稲山系丘陵が続き、自然の広がりを感じる地域となっている。設立は2003年と古く、運営理念に掲げている「人格の尊重、安心と尊厳ある生活、安らぎと自信を感じる生活、地域との交流」を職員が一体となって実践に取り組んでおり、スタッフの意欲的姿勢が着実に地域に根付いている。事業所の広報についても優秀な点として取り上げたい。家族向けのお便り「びーぶるマルシェ便り」を毎月発行し行事等の報告をしている他に、利用者一人ひとりの「個人便り」も定期的に家族に送っており、また地元の地域に向けて「公報」も定期発行し、さらに2ヶ月ごとの運営推進議事録も配布するなど、個人や地域に向けて各種の情報を発信し、認知症の理解に向けて精力的に活動を展開している。介護への基本的な姿勢にも注目したい。身体拘束廃止委員会や虐待防止委、看取り委、倫理委、事故予防委等々の各委員会を設置し毎月報告等活動している。まさに複眼的な思考で多角的に自己点検する事で、常に適切で適正な介護に取り組む基本姿勢を培っている。看護師の職員もいるため、かかりつけ医や介護職員と連携して、事業所が利用者にとって人生の最後まで安心して生活できる場所となるよう支援し、年間に1~2名の看取り介護も実施するなど、利用者や家族の高い信頼を得ている。地域に根差した「グループホームびーぶるマルシェ」の今後にも大いに期待したい。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者及び職員は理念を理解し理解し、日々の介護に生かせるよう努力している。毎日の申し送りに復唱している	「人格の尊重、安心と尊厳ある生活、安らぎと自信を感じる生活、地域との交流」を理念として掲げており、事業所内や案内パンフに明記し、実践に臨んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方にお会いした際は積極的に挨拶をしている。ホーム内の行事に地域の方に参加して頂けるように案内をさせていただいている(今年度はコロナ禍のため外部者の参加は控えて頂いた)	開設して18年が経過し、地元とはごく普通の地域生活者として交流を深めており、また地域向けに「公報」も発行し、認知症の理解促進に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年1回、広報を発行し活動内容を知らせたり、町内会行事に参加し地域の方々に理解を得るよう努力している(今年度はコロナ禍のため不参加)		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催して利用者様の活動状況を報告し、ご意見など参考にしてサービスの向上に努めている(今年度はコロナ禍のため外部者の参加は控えて頂いた)	2ヵ月毎に開催される運営推進会議は、包括支援センター、町内会役員、家族等々の参加を得て、定期的開催している。各委員会からの報告、事故やヒヤリハットの分析、避難訓練、介護方法など話し合い、また議事録は利用者宅に配布し、サービスの向上に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市、区の主催する研修会や交流会に積極的に参加して協力関係を築けるよう努力している(今年度はコロナ禍のため中止)	市や区での各種会合、研修会や説明会に積極的に参加し、行政とはなんでも相談できる関係を日頃から構築している。また保護課との連携も深めており、相互の協力関係が維持されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し毎月の会議で報告してもらい、職員間で話し合い検討している。外部の研修会などへ参加し身体拘束にならないケアに取り組んでいる(今年度はコロナ禍のため外部研修は一部不参加)	「身体拘束適正化委員会」を2ヶ月毎に開催し、日々の介護を検証している。職員への周知徹底は、会議や申し送り時に行い、事業所一体となって拘束や抑制と無縁な介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し全体会議にて報告し、職員の意見を求め話し合い、虐待防止に取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者及び職員は研修会に参加し全体会議にて報告し話し合いの場を持ち活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章をもとにしっかりと説明し不安、疑問点を尋ね理解を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の開催、ご家族様の面会等で意見や要望を聞き反映させている(今年度はコロナ禍のためガラス越しの面会を実施)	目的別のお便りを発行し、利用者の日々の様子を伝え、またアンケートも実施し、苦情箱も設置するなどして意見や苦情を取り込んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニットカンファレンスで意見、提案を聞き、反映させている	毎日の申し送り時や全体会議、カンファレンスなどで提案や意見を聞いている他に、人事考課制度で年に2回の面談が設定されており、忌憚のない意見交換が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者は職員の個々の実績、勤務状況を把握し、各自の個性を活かせるような環境作りに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者、管理者は職員に外部及び内部の研修に参加してもらい研修記録にまとめ全体会議にて報告している(今年度はコロナ禍のため外部研修は一部不参加)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者及び職員は各種研修会に参加し、同業者との交流をもちサービスの質の向上につなげるよう努力している(今年度はコロナ禍のため中止)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安なこと要望など傾聴し安心、信頼できる関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安や要望を傾聴し安心してもらえるような関係づくりが出来るよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様の思いや心配していることを傾聴し安心してもらえるよう支援している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様個々のペースに合わせ、出来ること出来ないことを知り、尊重し支援できる関係を大切にしている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との連携を取り、利用者様の日々の生活状況を話し、家族と共に支えている関係を大切にしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、親類、知人の面会やお手紙を通じて関係が絶えることが無いよう努めている(今年度はコロナ禍のためガラス越しの面会を実施)	顔馴染みの人の訪問は、ゆっくり過ごせるよう配慮し、墓参りや初詣といった場には家族と協力しあい支援しており、事業所の都合で馴染みの関係が閉ざされない、途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、孤立せず関わり合い、支え合えるような環境、場面づくりに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて、ご家族様の相談、支援、医療機関との連携により関係を断ち切らない付き合いをしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の生活歴、暮らし方の希望、ご家族様からの情報など、ご本人の意思に添えるように努めている	生活を支える中で、希望や思いを把握共有して本人の意向に沿えるように努めている。意思疎通が苦手や困難な場合でも、仕草や表情から、また本人の職歴や生活史から、本人本位の生活になるように取り組んでいる。	本人の最終段階への希望や思いの把握は、本人本位の観点から必要と思われるが、職員との話し合い等で事業所として方向性を検討しながら、より本人の意向に沿える取り組みに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方についてご本人、ご家族、知人から話を聞き、これまでのサービス利用の経過の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のスキニングやバイタル測定を通じて、心身状態を把握し生活記録の情報など総合的に判断するように努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者からの希望、ご家族からの意見、要望をもとにカンファレンスで話し合い現状に即した介護計画を作成している	状況に応じて医療や本人、家族の希望を聞き取り介護計画を作成している。モニタリングは利用者の毎日の生活を個人記録に記入し、3か月ごとに見直し、6ヶ月ごとに更新を行い、必要場合はカンファレンスにて変更も検討し、現状に合わせた介護計画になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、気づきを生活記録に記入して職員間で情報を共有し介護計画を作成している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望に応じて、一時帰宅や外泊など柔軟に対応している(今年度はコロナ禍のため自粛)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入し、町内会の行事に参加したり、ホームの行事も地域の方に案内を送ったりして参加して頂いている(今年度はコロナ禍のため自粛)		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人のかかりつけ医を大切に納得して診療を受けられている。変化があれば主治医に連絡をして受診しているその都度ご家族に連絡している	かかりつけ医は本人と家族の要望を優先して継続しているが、看取り介護の関係で往診ができる医療機関も検討している。往診時は、職員が立ち会って明確な情報を伝え、医療面の安全を確保している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と情報を共有し利用者の健康管理をしている。状況に応じて指示を得て適切な受診を受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報交換に努め利用者及び、ご家族様に安心して頂けるような関係づくりに努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所であることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び終末期のあり方について、早い段階でご家族と話し合い、ホームの支援について共有、ご理解して頂く努力をしている	看取り介護について、契約時に書面で説明し同意を得ている。また状況の変化にも対応し、本人や家族の意向を優先して支援に取り組んでいる。開設以降、看取り介護は毎年実施しており、現状はほぼ全員が当所での看取りを希望している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し初期対応や連絡体制を整えている。全体会議にて定期的研修もしている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、利用者が安全に避難できるよう努めている。また 地域の方々にも非常時に協力して頂けるようお願いしている	災害訓練は年に2回、夜間想定も含め実施している。冬季を考慮した備蓄品等も整備し、不意の災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格や誇り、プライバシーを尊重した言葉掛けや対応をするよう努めている	接遇は介護の要であり、プライバシーの確保や人格の尊重を旨として介護に臨み、研修や会議、個別な介護でも礼儀を忘れないようにと話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の思いを自己決定できるよう能力に合わせに行い、納得できるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせ、毎日が心地よく過ごせるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔に気を配り、身だしなみを整え、おしゃれ出来るよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の出来ることを活かし、職員と一緒に準備や片付けを行っている	個々の嗜好・栄養・心身の状況に配慮した楽しい食事になるよう、またその人に応じたお手伝いなどを無理のかからない範囲でお願いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部栄養士による献立を採用し、栄養バランス水分量を確保出来るように努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、その人の口腔状態に合ったケアを行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、失敗が減るよう声掛けを行い、気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレでの排泄を基本とし、排泄サインの共有によるトイレ誘導、時間による誘導等、その利用者一人ひとりに合わせた方法で、排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因、影響を理解し毎日の排泄チェックを記録に残し、排泄パターンを把握し歩行運動、水分補給で予防に取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の希望やタイミングで気持ちよく安心して入浴して頂けるよう支援している	毎日お湯を入れて準備し、全員が週に2回以上入浴できる事を基本として、入浴支援をおこなっている。拒否者には無理強いする事なく、時間や環境、対応者等を変えながら、楽しいお風呂になるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に休息としているが、その時々状況に応じて無理なく生活できるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に目を通して服薬の支援を行い、病状の変化の発見に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来ることを把握し、役割やゲームなどを行い、楽しく生活出来るように支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に応じて外出や散歩、買い物など出掛けられるよう支援している(今年度はコロナ禍のため自粛)	季節のドライブの他に散歩を日課として出歩くように努め、ご近所のお庭を拝見したり、買い物に出かけたり、体調や天候を考慮・相談しながら、閉じこもらない介護に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行った際、本人の能力に応じた使い方が出来るように支援している(今年度はコロナ禍のため自粛)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話をかけてり、手紙が出せるように支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は心地よく過ごせるように配慮し、掲示板などに季節や月々に合わせた装飾をしたり利用者の作品を飾るなど工夫をしている	共有空間は綺麗に整理され、掃除も行き届いた清潔で明るい居場所となっている。季節ごとに装飾を変えて、季節感を大事にしており、また温度や湿度も適正に調整され、居心地良く過ごせる様工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の席以外にソファをおいたり、ひとりで過ごしたいときは別に場所に椅子を置くなど工夫をしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの物を置いたり、使い慣れた物を使用したり、ご家族と相談しながら心地よく過ごせるよう工夫をしている	居室には出窓があるため広く感じられ、陽も差し込みゆっくりくつろげる部屋となっている。利用者は家族と相談の上、家具や生活用品などを持ち込み、また大切な家族の写真や仏壇を傍に置いて、安らげる空間を作り上げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の出来ることをなるべく行ってもらい、自立した生活が送れるように工夫をしている		